

1. 既存ハウスに取り付ける場合の注意や事前検討事項

- 分類に関係なく共通する事象（既存パイプハウスに取り付ける場合の重要説明事項）
 - ・【側面換気幅の減少】⇒軒（イーブスパイプ）を取り付けるために、屋根傾斜延長線と張出し幅の兼ね合いで決まるが、約20~40cm程度減少する。
 - ・【天井部フィルムと裏面フィルムの規格が大きくなる】⇒軒の部分の面積が増える
 - ・【新設ハウスと比較して凸凹が目立つ】⇒ハウスが変形している場合はイーブスも変形に比例した取付となる
 - ・【バンドレスハウスになる】⇒軒の部分にバンドを取り付けることができないためアーチ被覆止めスパンは1m~地域の降雪・強風地域を勘案して設置する
- 既存パイプハウスには大きく4種類が存在する。

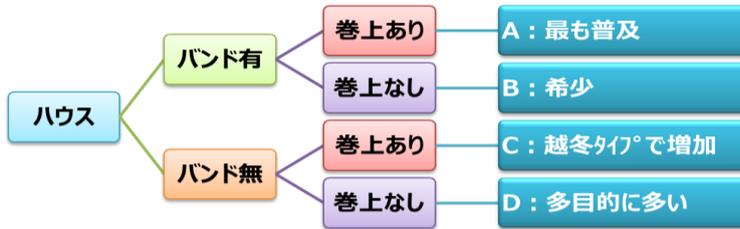


表1. それぞれの特徴

	ハウスの特徴	ハウス肩高	施工	改造コスト（D基準対比）	改造範囲(*1)
A	栽培用の大定番	低い 1.5m前後	農家施工可	高 直管・杭の位置移動(*2)	ハウス本体・杭
B	雨よけハウスの位置づけ	低い 1.5m前後	農家施工可	高 直管・杭の位置移動(*2)	ハウス本体・杭 新設巻上機
C	越冬ハウスに多い	中度 1.8~2m	農家施工可 施工依頼増	中 直管・ハットの位置移動 屋根ハット交換・追加	ハウス本体
D	格納庫や一部育苗などで利用	高い 2m以上	農家施工 不可	— 直管・ハットの位置移動 屋根ハット交換・追加	ハウス本体

(*1) : イーブスパイプ取付を除く改造の範囲

(*2) : イーブスパイプ取付位置に直管が干渉する場合。杭をハウス本体側に取付する

- アーチパイプの柱部の倒れ（間口と肩間口の差）に注意する
 - 一般的に【パイプ・アーチが寝ている】と表現することが多い。同業他社製や経年変化（台風や大雪）も検討しなければならない。
- イーブスパイプ取付難易度 【高い順 A⇒B⇒C⇒D】
- 上記項目以外で『毎年フィルムを脱着する』ハウスに取付推奨できない
 - ・豪雪地域⇒降雪量が多くハウスが埋没している場合は融雪時に下降沈下原因となる可能性がある
 - ・水稻育苗ハウスなど⇒イーブスパイプ付きハウスはユーザーによる被覆展張作業が困難

2. 改造工事の受注手順【現況の確認と見積→受注まで】

- ① : 換気幅の減少説明（重要事項）
- ② : 4パターンのどれに当てはまるか？ = コスト高⇔低に影響するため
- ③ : 築年数と経年変化や製造（販売）メーカーの確認
- ④ : 補強の提案【Wアーチ（トートラス）や方杖、筋交い、タイバーの追加など】
- ⑤ : 間口、肩高、換気幅、奥行き、パイプ埋め込みスパン、アーチパイプ長など
- ⑥ : 見積書提出、仕様の確認【軒の出】など
- ⑦ : 受注→材料納品→着工

3. 改造工事の施工手順

- ① : 既存被覆の剥がし（天候や日程を勘案して全面や部分的を検討して進める）
- ② : ハウス構造部に関わる直管の位置変更（干渉する場合）
- ③ : イーブスパイプの位置決定と被覆止め位置の変更（主に軒下など）
- ④ : イーブスパイプ部材の取り付け
- ⑤ : 被覆平行止めの取り付け
- ⑥ : 被覆展張（各所を張り替え工事と同様に行う）
- ⑦ : 軒先水切りなどの設置

4. 施工事例 I : 千歳市 D農家
・間口7.2m奥行30m 育苗ハウス

・施工前



・施工後



イーブスパイプの位置決定と
被覆止め位置の変更（主に軒下など）『仮決め』



被覆平行止めの取り付け



軒先水切りなどの設置

